



令和2年1月12日 松尾地区で191人が成人を迎えた



発行所
飯田市松尾公民館
編集人
松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷(株)

私は成人式を終えて思うことがあります。それは、両親への感謝です。私は高校卒業後、市内の工場に就職し現在2年目です。またまた経験は浅く、仕事の難しさに日々悩まされています。給料もできることなにもっといたいただきたいというのが本音です。そんなことを思いつつ成人を迎え、ふとこんなことを思いました。私の両親も高校卒業後に職に就き、今の私と同じ二十歳の頃、すでに私を育てていたんだと。今の私は両親と同じことをしろと言われても自信がありません。



今、思うこと
成人式実行委員
川野 優 (寺所区)



4月3日に飯田市を会場に行われる2020年東京オリンピック聖火リレーのランナーに



赤羽 徹さん 毛賀区

「市民、飯田を代表する重要な責務なので、しっかり準備したい」

赤羽さんは「挑戦することの大切さを伝えるために」市民、飯田を代表する重要な責務なので、しっかりと準備したい。ランナーに選ばれた。航空宇宙プロジェクトに参画する53歳。同日は県内7カ所で聖火リレーが行われる予定で、28人が聖火ランナーに選定されている。

赤羽さん 聖火ランナーに

せん。きつと両親も私と同様に仕事で苦労し、満足のないような給料はもらえていなかったと思います。それでも、私は何の不自由を感じることがなく二十歳を迎えることができ、ここまで育ててくれた両親は本当に偉大な存在に感じます。本当に感謝しかありません。だからその感謝の気持ちを、今度は何か形にしてお礼をしたいと思っています。



成人式実行委員と三船主事



飯田市消防出初め式が1月13日飯田文化会館で開かれた。市内18分団、まちづくり委員会、自主防災会や日赤奉仕団などがシルクホテル横を出発し、東和町、飯田駅前、中央通り、銀座、通り町1・2丁目までの間を進行。中央通り1・2丁目交差点では観覧者に対して敬礼をした。団員らは大勢の市民が見守る中、防火防災への誓いを新たに式典に先立ち、松尾地区では分団員と少年少女消防クラブが鳩ヶ嶺八幡宮で安全祈願をした後、秋葉街道をパレード。春を思わせるような暖かさの中、区民の安全安心を願いながら進行した。

区民の安全安心を願う



昨年4月バリの「フートルダム大聖堂」、10月には沖繩県にある世界遺産に登録されている首里城跡に復元された首里城が焼失した。ともに地元の人たちの心の拠り所として親しまれてきた。この松尾地区で考えてみると、「鳩ヶ嶺八幡宮本殿」「毛賀諏訪神社本殿」「旧飯田城の八間門」が住民の心の拠り所となっている。何か▼さて皆さん1月26日は何の日か知っていますか。昭和24年1月26日、世界最古の木造建築物である法隆寺金堂が火災となり壁画が焼損した。ことにより、昭和30年に国民の文化財に対する愛護を高めることを目的として、1月26日が「文化財防火デー」と定められている。▼鳩ヶ嶺八幡宮本殿「毛賀諏訪神社本殿」「旧飯田城の八間門」は飯田市から指定を受けた文化財である。文化財には、歴史的、芸術的にも価値の高いものが存在するにもかかわらず、時代とともに風化が進んだり、継承する人が居なくなったりと、様々な事情により消滅の危機に瀕しているものが少なくない▼私たちがさまざまな祭典を通じて、接してきたそれぞれの文化財をこれからも大切に、地区の象徴として後世に引き継いでいってほしいものだ。

松尾の人口

男子	6,237人
女子	6,811人
計	13,048人
世帯数	5,166世帯
2月末現在	

2日間にわたり盛大に

松尾地区文化祭が開催される

松尾地区文化祭が2月1日から2日間開催された。今年の特テーマは「松尾地区文化祭の歴史に触れるとともに多くの人が集い交流する場

を提供する」。1日目は、飯田OIDE長姫高校機械工学科生徒による「ミニ電車にしよう」、食生活改善推進協議会の

「高野豆腐のふんわりドーナツ」。さらに、伊那谷健康友の会による骨密度・体組成測定も不動の人気だった。その他、昨年度好評だったス

ポーツ委員会の委員が作る「ボン菓子」にも大勢の区民が集まっていた。

2日間にわたる飯田市危機管理室による「地震体験車」は、普段体験出来ない経験が出来ることあって大勢の住民が列をなした。実際体験した人は「こんなに揺れたらどうしようもないよね」と話していた。

初日の芸能発表会では、上溝お囃子屋台保存会による「お囃子」を皮切りに10団体が日頃の練習の成果を披露した。

2日目は9時より文化委員手作りの「おしるこ配布」、交通安全部によるトヨタ自動車プリウスの「自動ブレーキ体験」、午後からはチャイルドシートの無料配布が行われ、気に入ったチャイルドシートを手に入れようと長い列が出来た。分館(久井区・水城区・新井区・



ふんわりドーナツ揚げます



立ってられない



ティーズと一緒に



ビュンビュンコマ、よく回るよ



今年もたくさん



オープニングセレモニー



中学生がおしるこ配布



風船どうぞ(消防団)



まつお新聞
文化祭特別号

松尾地区文化祭 盛大に開催される

文化祭を楽しむ松尾少年女子クラブの皆さん

「まつお新聞」は、地域の文化・芸術・スポーツなどを紹介する情報誌です。今年も松尾地区文化祭の開催に合わせて特別号を発行しました。この号では、文化祭の盛り上がりや、参加者の声、そして地域の魅力を詳しく紹介します。

まつお新聞
文化祭特別号

松尾地区文化祭 盛大に開催される

松尾文化祭の準備をする婦人会の皆さん

「まつお新聞」は、地域の文化・芸術・スポーツなどを紹介する情報誌です。今年も松尾地区文化祭の開催に合わせて特別号を発行しました。この号では、文化祭の盛り上がりや、参加者の声、そして地域の魅力を詳しく紹介します。

今、自分のところで何が出来るか考えよう 分館役員研修会

2月26日、分館がいかに盛り上がるかというのを目的に、分館役員研修会が公民館和室で行われ、約40人が参加した。

下條公民館長のあいさつのもと、4つのグループに分かれて意見交換。主に分館の悩みや問題点、本館や専門委員会への提案などが行われた。

「行事に集まる人の顔ぶれは大抵同じで、新しい人に声をかけてもなかなか出てもらえない」「運動会の人集めが大変」「役員決めに苦労している」「土日参加できない人のための行事を考えたらどうか」「雨天に左右されない囲碁ボールには結構人が集まるので内容を考えた方がいいと思う」「他分館との交流で意見交換をする」など積極的な意見もあり、分館のこれからを真剣に考える機会となった。

関わりつつながり学び合う 心豊かな暮らし、地域をめざして 第57回飯田市公民館大会

2月16日第57回飯田市公民館大会が飯田市公民館で開催された。飯田市教育功労者表彰、ムトス飯田賞表彰の後、講師に岩本悠氏を招いて基調講演があった。

岩本氏は東京生まれで学生時代にアジアやアフリカ20カ国の地域開発の現場を巡り、幼・小・中・高校教員免許を取得し、卒業後はソニーで人材育成・組織開発に従事。その傍ら途上国の教育支援活動などに取り組む。島根県海士町に招かれ「人間力推進プロジェクト」の出前授業を開いたことをきっかけに、統廃合の危機にある島の高校を守りたいという話を聞き島に移住した。

地域の教育力、地域の人材を生かし「島全体を学校に」改革を行ったことは、NHKのドキュメンタリー番組で放送されるなど、注目を浴びている。島根県での事例を基に、地域の未来を担う人づくり、子供と大人の学びを考える中で、古くからある「意欲能力の高いものは都へ行け」という中央集権国家の考え方を考えること、「仕事がないから帰れない」から「仕事を作りに帰りたい」へ、など語った。また大人のあり方について、学ばない大人が多くいる地域や、意欲のある人がいない。地域は発



「世界がひとつになるまで」など13団体による芸能発表会が開催された。

南地区の事例紹介もあった。第2分科会には基調講演の講師岩本氏も参加し、「高校生や若者に対して、私たち大人はどうありたいか」をテーマに話し合われた。飯田OIDE長姫高校の國松秋穂教諭、同校の地域人教育の授業で、東野地区の柏原野菜を広めようと芋餅の開発に携わった菅沼望子さん、同校の卒業生で現在千葉商科大学に通い、ボランティア推進委員会(会員約200人)の代表を務める代田千英さん、南信濃でコンパスハウス(空き家を利用した若者の集う場所)を運営する遠山典弘さんらの体験を聞いた。その後のグループワークでは若者の「いきいき」としている大人は素敵「提案してもすぐ否定する大人はやりづらい」や「肩書でしか話せない大人とは話していても楽しくない」「大人と一緒に公民館活動とかやりたい子はいるはず、声をかけてほしい」といった声も聞かれた。



「行事に集まる人の顔ぶれは大抵同じで、新しい人に声をかけてもなかなか出てもらえない」「運動会の人集めが大変」「役員決めに苦労している」「土日参加できない人のための行事を考えたらどうか」「雨天に左右されない囲碁ボールには結構人が集まるので内容を考えた方がいいと思う」「他分館との交流で意見交換をする」など積極的な意見もあり、分館のこれからを真剣に考える機会となった。

歌やダンスに思わず笑顔 芸能発表会

2日間で23団体が発表、日頃の練習の成果を十分に発揮



上溝囃屋台保存会



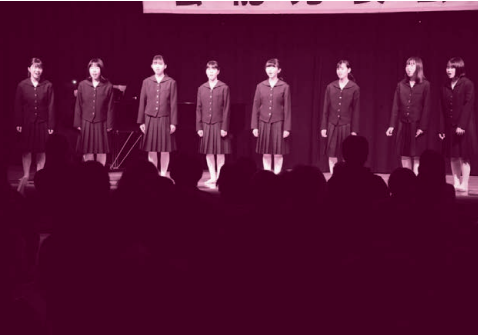
松尾東保育園らいおん組



ハーラウ・フラオ・ラウレア



浦安の舞



緑ヶ丘中学校合唱部



下伊那農業高校吹奏楽部



松舞会



輝悠会



両壁太鼓



信州飯田岳風会松尾支部



慈光松尾保育園



松尾小学校合唱団

「ワンバウンド」飛び交う声!

分館交流ワンバウンドふらば～るバレー大会

1月26日、飯田勤労者体育センター第一体育館で「分館交流ワンバウンドふらば～るバレー大会」が行われた。分館ブロックチーム、ふれあいブロック4面のコートに分かれて熱戦を繰り広げた。

「ワンバウンド」などの声が飛び交う。強く打ち込んで、あっさりレシーブささり、ラリーが続く。逃げるボールにスライディングして食らいつく。相手にぶつけようとする、それをよける攻防。落ちてくるボールをお見合いし返し損ねても、声を掛け合い次のプレーへ。どこへ弾



「松尾少年空手クラブA」。

結果は以下の通り。
分館ブロックA 1位水城、2位城、3位上溝、4位明、5位常盤台、6位八幡町。
分館ブロックB 1位毛賀、2位新井、3位代田、4位寺所、5位久井、6位清水。
ふれあいブロックC 1位「上溝ふらば～る同好会」、2位「レジェンド」、3位「上溝ボンバーズ」、4位「明有志チーム」、5位「GIIJYO」、6位「松尾消防団」。

ふか分からないボールに翻弄され、尻餅を突く。観衆の声援、笑いが体育館に響き渡っていた。

2月23日に、常盤台区集会所において松尾地区多文化交流会が開催され、約40人が参加した。

10時より、常盤台区小林分館主事指導のもと、水餃子作りが行われた。小林さんは中国出身、多い時には日に3回水餃子を作るそうです。手さばきはプロ並みだった。中国・ブラジルからの帰国者を交え、具・皮の作り方・包み方を習った。

その後3種類の手作り水餃子の茹でたてを参加者は、美味しそうに頬張った。また、中国の踊りも披露され、盛況のうちに終了した。



難しいものだ

「多文化交流として何をしたら良かったかを纏め、その歴史を引き継ぎたい」と語った。

初めは皆ぎこちなかったが、細かい指導を受けメキメキ上達した。

13時から旭ヶ丘中学校教諭大橋春美さんによる「お互いを知ろう!日本はおもしろい!」と題した講演会が行われた。

大橋さんは8歳の時に中国から戻り、日本語は漢字ひらがな・カタカナと使い分けている。当時は中国語の教育がなかったため、英語の教職を目指したそうである。

「文化は違うが、お互いの違いを知るとおもしろい」と語った。

松尾地区文化祭を終えて




下條公民館長

公民館西側の駐車場には桜の花が咲き、正面入口の葉牡丹には青虫が這っていました。まるで春のような陽気が多くなると誘い、中学生を含めた1000人にも迫る実行委員の皆さんのご協力によって大盛況の文化祭が出来ました。

また今年度展示を担当された6分館の皆さま、丹精込めた作品を出展して頂いた各種団体の皆さま、日頃の精進の成果を発表して頂いた芸能発表の皆さま、大変ありがとうございました。

どれを観ても一朝一夕には真似出来るものではありません。やはり人間はコツコツと平日の努力の積み重ねが大切なんだと改めて認識致しました。

一部に不手際があり不快な思いをお掛け致しましたこと深くお詫び申し上げます。



文化委員長 熊谷吏花

子供たちの元気なダンスで始まった文化祭は、天候に恵まれ多くの皆様にご来場いただき大盛況のうちに幕を閉じました。ご協力いただきました、実行委員の皆様、各種団体の皆様、文化祭、芸能発表会にご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。

今年度初めて、飯田OIDE長姫高校定時制の生徒

による、ゆるキャラ「ティジーズ」を招待し、アットホームなショーが楽しめました。また、念願の地震体験車も来ていただけました。不手際もあり反省すべき点もありましたが、皆様に楽しんでいただける文化祭を来年度もお届けしたいです。



まつお新聞 250号 記念特集

近代化への脱皮

昭和63年度〜平成11年度
公民館長 松尾 豊さん



「日本建築だから靴を脱いで建物に入るのは当たり前のことだ」とこの集会施設だつて皆スリッパに履き替えている。部屋や廊下が砂や泥だらけになり掃除も大変だ。当時は誰もがこうした考えでした。履物のまま出入りする構想に対する反対と抗議は凄まじいでした。「建物が広くなり掃除は婦人会や老人クラブに頼む時代ではない。清掃会社に委託する。費用を市が出してくれなければ地元が負担する」。塩沢弘自治会長の先見性と

250号に寄せて

昭和62年度〜平成元年度
広報委員長 熊谷 智治さん
平成7年長野県公民館大会で
功労者表彰された熊谷さん



昭和60年3月、当時の公民館館長と主事が訪れて、公民館の広報委員にと言われ忙しい中、深く考えることもなく引き受けました。当時の広報委員会は一部地区の皆さんで組織されて

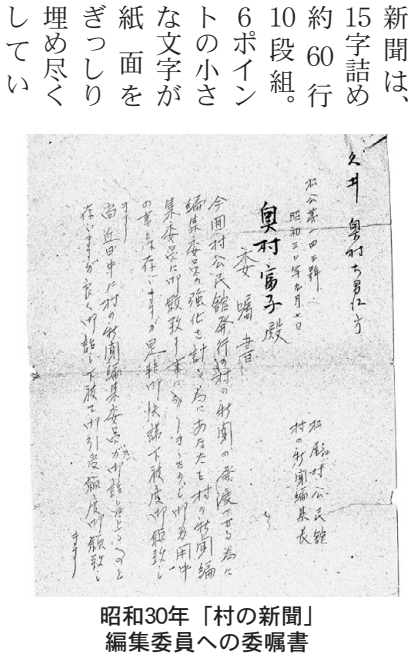
松尾公民館の思い出

平成6年度〜平成9年度
公民館主事大島 康弘さん

私は平成6年から4年間公民館主事としてお世話になりました。とても思い出深い職場でその経験が今の仕事に引き継いでいます。少しづつ当時の記憶を辿ってみます。体育事業では、普及したマレットゴルフを地区の皆さんと一緒にまわりながら、コースを作ったことが印象的です。文化事業では文化祭や人形劇の他に、地域の方々が講師の史跡巡りを一緒に

紙面にあふれる 圧倒的熱量

「まつお新聞」の前身である「村の新聞」は、戦後間もない昭和22年に青年会・壮年会・婦人会によって創刊された。同24年、公民館が開館すると館の発行となり、一時中断されたが29年12月に復刊第1号が刊行された。31年、飯田市との合併後の11号から「松尾の新聞」に名称変更し、34年23号から現在と同じ「まつお新聞」となった。ほぼ隔月で発行していた新聞は、15字詰め約60行10段組。6ポイントの小さな文字が紙一面をぎっしり埋め尽くしている。



昭和30年「村の新聞」編集委員への委嘱書

250号を迎えて

平成8年 気楽な仲間たちと
元広報委員長 下條啓市
現公民館長



最後はこれからも公民館活動が益々発展されますことをお祈り申し上げます。どこかでお会いしましたら気軽に声をかけて下さい。



平成28年お練りまつり参加の大島さん

昔はこんなことも

昭和30年11月3日村民運動会で仮装行列第1位
久井区青年会による石膏「スポーツ」の祭典



- 29 下伊那中央病院建築始まる
- 30 中学建設具体化
- 31 八幡町ネオンサイン灯る
- 32 国道八幡毛賀間改修工事着工
- 33 松尾飯田市合併
- 34 有線放送の運用開始
- 35 上水道計画開始
- 36 北の原市営住宅31戸建設
- 37 八幡宮遷宮大祭
- 38 緑ヶ丘中落成式
- 39 三六空襲前の大被害61億2千万余
- 40 八幡公園完成
- 41 下の宮神社遷宮が代田区へ
- 42 松尾子ども銀行 貯蓄全国一位表彰
- 43 清水重美新市長誕生

- 44 緑ヶ丘中夜間照明灯る
- 45 松尾小開校百年祭
- 46 サンブラザ八幡開店
- 47 八幡駅貨物扱い廃止
- 48 松尾城址を公園化へ
- 49 松尾小新北校舎落成
- 50 新水神橋完成
- 51 小学校校舎土手消える
- 52 松尾東保育園完成
- 53 支所横にミニ体育館完成
- 54 「松尾村誌」刊行
- 55 松尾小南校舎落成
- 56 台風10号瞬時の増水
- 57 天竜グランド売却市から食品組合へ

昭和の5050、こんな事がありました

心新たに昭和29年の「村の新聞」復刊第1号から、令和までの「まつお新聞」を読みました。戦後の混乱が残る中でも明るく希望を持って語られた自由恋愛論、婦人会や青年会など真つ直ぐ前を見つめた活発な活動、三六災と前後する自然災害被害に全員で立ち向かう熱き挑戦、次世代を見据えて保育園や小中学校の充実に画策する清き心、正しいと思うことをぐいぐいと引つ張った力強い歴代の自治会長。1部を読むごとにどんと引き込まれ、時間を忘れてしまふくらいでした。私たちは今を当たり前として生きてきました。ですが先人の方の寝食を忘れた努力の上であることに感謝しましょう。この重い歴史の記述を消滅させないようにマイクログリップ化を企画します。

毎年文化祭の日が来ると、公民館の保管棚から委員総出で運び出すのが昭和29年からのまつお新聞です。普段はあまり目にすることはありませんが、この機会にと昔の新聞を見てみると、自治会の問題提起等はもちろんありますが、おいしい漬物の漬付け方やPTA総会のあり方に物申すなど今の新聞とはずいぶん内容が違ふと感じます。SNSで簡単に発信出来る現代と違つて、ものを伝える唯一の手段だったのかもしれませんね。全国紙や地方紙と違い松尾の記録としての役割も担うまつお新聞が60年以上続き、今回250号を迎えたことには、地域の協力はもちろんですが、歴代の館長、主事、委員の皆さんのご苦労があつたことと思ひます。これからも正確な情報をお伝えしていきます。同感張りたいと思います。



広報委員長 松原倫子

松尾一周の歌

〔鉄道唱歌のリズムで〕

- (1) 静けき御代の春の空 匂ふ朝日ともろ共に 旅行く人の心して 我村内を尋ね見ん (2) 昔は島田の里といふ 三千石の十耕地に 毛賀を併せて千早ふる 松に因める松尾村 (3) 村の中央城に立つ 吾等が集ふ学校は 内外のきまりそなはりて 優良校の誉あり (4) 校門出でて勇ましく 役場前より右に折れ 松の繁れる西山に 仰ぐ県社の鳩ヶ嶺 (5) 石の鳥居につづきたる 木立に見ゆる神垣や ぐるぐるの楼門石段を 登りて宮に礼拝し (6) 下りはやさしき女坂 (7) 軒を並べて賑わしく 商栄繁華の八幡町 銀行倉庫会社業 電信電話備はれり (8) 道は金刺街道にて 馬車の行き来も絶間なく 妙見山は町つづき 四季の眺めの勝地なり (9) 久井の稲荷龍門寺 共に栄ゆる桜あり 名を上溝と仰ぐなる 天満宮に詣でつつ (10) 道路開鑿堀割の 此れより乾十余町 長姫城頭勇ましく 那郡の都飯田あり (11) 西は鼎の村つづき 北の境は松川や (12) 清き流れの水上に 水力発電設けあり 松尾城址もさぐり見ん 過ぎて新井に来て見れば 岩に砕けてすさまじく 天龍川の水の音 (13) 流れに沿ひて松森の 中に弁天社あり 川の中洲の祠には 龍神守護のありとどきく (14) 寺所どころの蚕種を見て いっししか此処は思ひ川 明大菩薩の森のかげ うつつ清水のおだやかさ (15) 下久堅へ渡したる 秋葉街道の長橋は 夏水泳の守りなる 水神橋と名づけたり (16) 毛賀に目に立つ大森は 畏き諏訪の社にて 雲と聳ゆる杉にこそ 雄々しき心あらはるれ (17) 代田耕地の下の宮 上ぐる神楽の獅子塚や (18) 小笠原氏の籠もりたる 松尾城址もさぐり見ん 此処は昔の蔵屋敷 ここぞ高土堤堀の址 南は絶壁、毛賀沢の 昔をしのぶ谷の音 (19) 霞む水田のその間には 若葉緑の桑園や 紙すく家のおちこちに 栄見ゆるぞゆかしけれ (20) 帰校の歩みも威勢よく 唄ふ唱歌ともろどもに 今日愉快を祝ふなり 惜しき名残りの夕日影

「いしくみふかき」いよいよ公開

飯田下伊那をロケ地として撮影された映画「いしくみふかき」が2月14日からセンゲキシネマとトキワ劇場で、全国に先駆けて先行上映されている。俳優の渡辺いっけいさんと、企画から携わり地元ゆかりのある遠山雄さんダブル主演のこの映画は、大

山晃一郎監督が手掛けたインデペンデント映画(自主制作映画)であり、編集や音楽にこだわらるあまり予算を大幅にオーバーしてしまい、完成まで実に6年という歳月を費やして、今回の上映となった。作品には松尾の八幡町区から常盤台区へと続く坂も

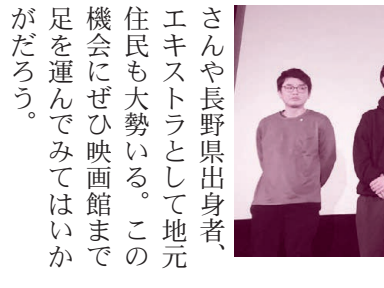
にあり、おばあちゃんの病院に行くときに、あの坂を上りました「小さい頃はおじいちゃんに連れられて、松尾小学校のさんしよううおを見に行きました」と。出演の俳優陣の中には八幡町区出身の平栗あつみ



全編 飯田下伊那で撮影!!



映画のワンシーン



舞台挨拶

広報委員が選んだ「へ～！こんなことがあったんだ～」

「待望のアルミプール完成 開校百年行事のお土産」昭和49年7月27日 65号 開校百年事業で、増強された設備のひとつが県内初のアルミプールだった。当時、私は5年生。叩いた時の金属音、真新しいプールにとてもわくわくした。オフシーズンにプールで魚釣り大会が行われ鯉を釣り損ねたことや、プールだけでなく、百年を経た木造校舎で過ごした小学生生活の記憶が次々とよみがえり、胸が熱くなった。(小笠原)

二十歳の門出 平成2年3月31日 この頃から飯田市でも成人式が1月15日に移行されたと懐かしく思った。(松下)

ショッピングセンターサンプラザ八幡開店 「昭和49年11月21日午前10時オープン、当日は朝早くから地元はもとより周辺の各町村から客がどっと押し寄せ開店と同時に千人が。閉店までには同店の予想5千人をはるかに上回る9千人余りの人出で店内は一日中賑わった」 時代が変わってしまった。もう一度賑わう松尾になればいいなと思った記事である。(岩崎)

求人ヤアーイ！昭和33年9月30日 職安からの求人情報の記事「求人ヤアーイ」。このヤアーイって野次的な掛け声ではないのか。とすると「求人どうだ」となり、どうも違和感がある。今、タイトルをつけるなら「求人あるよ！」(田中要次が言うセリフ)がいい。(棚田)

昭和52年新校舎 松尾小学校に新校舎が完成した昭和52年の新聞より。3階建ての新校舎には普通教室14室と図書館・家庭科室・理科室・音楽室などがあり、特に3階の音楽室は防音や音響に配慮がなされ、先進的な造りだったことがうかがえる。一方で旧校舎は壊され、廃材が燃やされていく様子を見た当時4年生の平栗京子さんは「かにさされてもねずみがいてもやっぱり古い校舎がいいな。古い校舎が天国へいけますように」とかわいらしい詩を詠んだ。42年経った今、子供たちは大切に校舎を使っている。(湯浅)

八幡原に移転決まる 昭和62年に飯田市立病院の移転先として八幡原に決定したという記事を見つけた。アップロードが開通する前は店舗や住宅もなく、一面に桑畑が広がる高台となっていた。当時は養蚕が盛んに行われ、飯田下伊那地区の農業の主要品目のひとつとなっていて、桑畑が各地で見られたが、今では数軒しか養蚕を営む農家は無いそう。33年後の現在では、八幡原も病院や店舗・住宅が建ち並び当時の面影はない。(米山)

夜間照明記念長時間ソフトボール大会 平成5年10月1日 第144号掲載 登録全26チームが紅白13チームに分かれて、7月31日午前3時～8月1日午後5時までの26時間で、1試合2時間の計162インングの熱戦に挑んだ。出場選手は170人にのぼり、ママさんソフトボールクラブの皆さんの心温まる飲食の差し入れもあった。今でも盛んな夜間ソフトボールは、グラウンドから大きな掛け声やボールを投げる・打つ軽快な音が聞こえる。(宮川)

冬の記録 皆さんの記憶には残っているだろうか？平成13年3月31日に発行された「まつお新聞」に「降った積もった記録的大雪」と題して、当時の様子が報じられていた。飯田測候所が観測を開始して以来、昭和3年の56センチと並び73年ぶりに史上最高の積雪を記録し、八幡山の樹齢200年のアカマツが折れ、パイプハウスが倒壊したとのことであった。記録として残っていることで、当時の様子を思い浮かべることが出来た。(柄澤)

昔のまつお新聞には広告欄があった

水神橋にハネ上がった流木 昭和36年7月31日 私たちが住む伊那谷は、中央アルプス、南アルプス、南アルプスの山々に囲まれた美しく自然豊かな地域です。しかし、時に美しい自然は、猛威を振るいました。三六災害による死者・行方不明者は136人、家屋の全壊・流出・半壊は1500戸にも及んだ。(松尾地区にも甚大な被害をもたらした) 昨年の台風19号による千曲川の堤防決壊、今後30年以内に起こるであろう南海トラフ地震等、今後の気候変動によって深刻な打撃を受けるだろうと予測すると恐ろしくなる。(鴨井)

昭和58年10月号、「献血は健康な人のボランティア」との表題があった。その1年半後に大学進学、友達と一緒に軽い気持ちで初めての献血をした。献血中に、視界がかなり暗くなり、最後は点滴をして頂く始末。その14年後、衛生管理者になったことをきっかけに献血を始め、今ではその日にバスケが出来る程になった。きっかけは些細なことでも、誰かの役に立つことを続けることは大事だと「献血」の文字を見る度に思う。(今村)

昭和48年第64号まつお新聞 少し思い出して見ると、校門と横の桜の木はその時のままです。その横には、岩石公園があり、春にはそこで給食を食べた。私の卒業の年が松尾小学校開校百年の記念の年だということを、新聞を見て思い出した。(平栗)

おんべで焼いたおもちを食べて無病息災を願う

久井区

大人約40人、子供約20人が参加した久井区のおんべは、1月5日午前6時に点火された。「例年より正月飾りなどの量が多く、前夜の雨で湿ったため燃え残りが多く灰の片付けが大変だったが、怪我もなく無事立派なおんべが行えて良かった」と小学校支部長の小島克也さんは話した。



おもちおいしいね

清水区

清水区では、どんど焼きは、小学校の児童、保護者が主体で行う。12月8日に清老会の指導の下、児童はおやすみ作り、保護者は松取りをし正月の準備をした。1月11日全地区を回り松飾りを集め、おんべを天竜川河川敷に作った。



高く上がる炎

上溝区

1月12日、松川河川敷の上溝ふれあい広場でおんべが行われた。令和最初の正月、大量の正月飾りで出来上がった巨大おんべに5時50分点火されると、たちまち空高く炎が立ち上った。7時頃から餅焼きが始まり、今年の無病息災を願って食べていた。



りっぱなものできました

寺所区 神様の食器なんだって

世代間交流おやすみづくり

寺所区では、12月22日に伝統を後世に伝えることと世代間交流を目的におやすみ作り講習会を寺所集会所で開催した。当日は寺所区の高齢者クラブと小学生ら約50人が参加。高齢者クラブ会員が指導者となって小学生や保護者と輪になってグルーピングをつくりおやすみの作り方を手解きする形式で行われた。



まず一連の作り方を見学した後グループに分かれておやすみ作りに取り掛かった。菓を2本ずつ取り編み込んだ

でいく作業を繰り返し、ある程度の長さになったら丸め込み、形を整えて松飾りなどを付けて完成させた。子供たちは最初は戸惑いながら作業を始めたが、高学年の子供たちは毎年参加している

とあって手際よく作業に当たっていた。一方で低学年の子供たちは保護者と一緒に高年齢者クラブの会員の手解きを受けながら完成させた。

おやすみ作りは1時間程で終了したが、高学年は2、3個、低学年は1、2個完成させ自宅へ持ち帰り、玄関先などに飾った。

水城区 どうしめ縄って作るの？

12月22日、水城コミュニティセンターでしめ縄の模倣作成が行われた。令和3年度は水城区が例大祭の年番区となり、令和2年12月にしめ縄を作り、鳩ヶ嶺八幡宮へ奉納する。そのため、



代田区 見て楽しむ文化展

2月9日、代田公民館で代田地区文化展が行われた。この日は早春の暖かな日和も手伝い、会場は入れ替わり訪れる100人以上の区民で賑わった。

田中郁男さんは仲間と毎年両国へ相撲を観に行くと言い、初代貴ノ花が掲載された大相撲番付や炎鵬の手

め、実年会、青壮年会の会員を中心に30人余が集まりしめ縄作りを体験した。作り始めてみると藁の巻き方は上向きか下向きか、紐の締め方は右回りか左回りかなど、実際に体験しないとわからないことばかり。次年度年番の上溝区にしめ縄作りを見学したメンバーを中心にしめ縄とべの子を作ることが出来た。

松尾は古墳が有名だから 地域人教育 飯田OIDE長姫高等学校

飯田OIDE長姫高校で展開している「地域人教育」は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や地域社会に貢献できる人材を育成する教育プログラムだ。



業科3年生の三嶋らなさん(寺所区)含む8人。サンロード八幡の一角に、昨年12月13・14日、2日間限定でカフェを開いた。無料でコーヒーや紅茶を提供。地元製パン店との共同開発

で焼いたパンと生徒が形を考案し、地元製菓店が焼いたクッキーを販売した。「松尾のことを学ぶ中で、グループの一人が松尾出身ということもあり、松尾では古墳群が有名で、小さいころから古墳巡りをして歴史を学んでいることを聞いたのでクッキーの形を古墳に因んで、亀甲馬具などにしました」と話すのは中川村から通う西尾瑠華さん。地元で暮らしたいと既に就職が決まっている生徒や、一度は外に出て学び、いずれは帰って来たいと話する生徒など、この学習を通じて自分の将来をきちんと見つめる機会を与えられたとそれぞれ話していた。

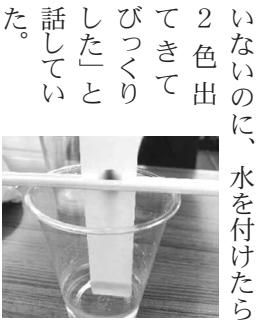


形など、貴重な相撲関連品を展示した。また今回初めて、地区の火の見櫓で火災を知らせるために使われていた半鐘も展示された。刻印によると大正14年に造られた物とみられ、戦時中も地区に大切に保管されていたと思われる貴重な品だ。この他にも会場には生け花や手芸の大作・写真・切り絵・仏画・書・陶器・紙作品や記念品などバラエティーに富んだ200点以上の品が展示され、訪れた区民は思い思いに見入っていた。また、おしるこや漬物も振る舞われ、区民の交流の場となった。

毛賀区 芸能祭



2月23日、毛賀区民会館で令和元年度の毛賀区芸能祭が行われた。歌や楽器演奏、ダンス、詩吟等この日のために一年間練習を重ねた演者の最高のパフォーマンスに約150人の観客からは笑いや感嘆の声があふれ、演技終了時には惜しみない拍手とおひねりが飛び交っていた。休憩を挟んで4時間程の



発表だったが、全員が時の経つのも忘れて友人・知人の演技に感心し見入っていた。